



参画だより

No. 36

2008.11.30

弘前市民参画センター

○表紙の川柳○

弘前市民参画センター利用者のみなさんから男女共同参画に関する川柳を募集し、利用者の方々による投票で最も得票数が多かった作品を掲載しています。

映画見て
すぐ泣く彼に
恋してる

作者コメント 福岡志津子さん

ある日の映画館、いつもかっこうをつけている彼がこぶしで涙をぬぐっていました。鼻水まで垂れて…。何だか急に親近感を覚えてうれしくなりました。男だって泣いてもいい、だって私はあなたの男らしさではなく人間らしさが好きなんだから。女らしさとは程遠い私だけれどこれからもよろしくね。

弘前市民参画センター事業紹介「ひとにやさしい社会推進セミナー」ほか P 2・3

まなぼ「出会う・つながる・動き出す」第2回 P 4

おとこの気持ち聞いちゃいました「学んで気づくこともあるのかも…」 P 5

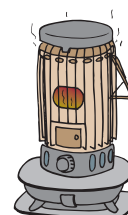
さんかくひとりごと「社会人として必要なことだった…」 P 5

ひとグループ
男女・団体紹介「我が家の味は僕の味」 P 6

利用者・利用団体紹介「早蕨俳句会」ほか P 7

本の紹介「女性とパワーハラスメント」 P 8

センターからのお知らせ P 8

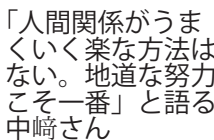


「コミュニケーション力向上のポイント・源氏物語に見る女性の生き方などを学ぶ」

「平成20年度ひとにやさしい社会推進セミナー」が弘前市民参画センターで開かれました。このセミナーは、男女が責任を分かち合い、ともに支え合う社会の実現を目的として開催しています。

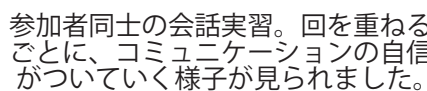
6月18日、25日、7月2日の3回連続講座として開かれた第1回セミナー「あなたにコミュニケーション力をプラス」では、人材開発センター主宰の中崎良次さんが講師を務め、コミュニケーション力を高めるためのヒントについて、心理学の面からみた人間関係論や、参加者同士の会話実習も取り入れながら講義しました。

中崎さんは、「人とのコミュニケーションを考えるなら、まず自分とのコミュニケーションをしつかりとること。自分をしつかり見



つめられない人は、人ともコミュニケーションがとれない。いい自分も悪い自分も、見たくない自分もしっかり見つめる、というところから人とやりとりができる。自分がどのレベルで人とやりとりしているのかを自覚して、自分に何が足りないのかを見つけること。相手が話したことを自分がどう受け止めているのかをしっかり認識して、相手を理解し、自分を伝える努力をしてほしい」と話しました。

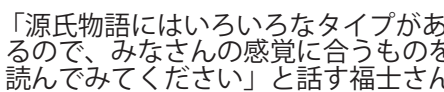
セミナーには弘前市内外から約20人が参加し、中崎さんの講義と「自分を伝える」「相手の話を聴く」



といった内容の実習を通して、人間関係づくりやコミュニケーションのあり方について理解を深めました。

8月22日には、第2回セミナー「源氏物語の女性たち」仕事と結婚」が開かれました。

講師の福士りかさんは、国語教員として中学生から大学生までを教えるかたわら、歌人としての活動もしています。今回のセミナーでは、源氏物語に登場するさまざまな女性の生き方を紹介するとともに、現代の女性と平安時代の女性を取り巻く仕事と結婚の状況について講演しました。



福士さんは、現代女性の晩婚化の傾向と非婚・未婚の増加について、女性に仕事をする機会が増えたことや、親と暮らすことで「結婚しなくても生きていける」という状況が生まれてきたこともひとつの要因と説明し、「女性にとって可能性がひらかれるという意味では喜ばしいことかもしれません」が、家庭と仕事の両立をはばむ多くの問題、独身であることに對する偏見、子どもを生んでいない既婚者の葛藤（周囲からのプレッシャーや心ない言葉）など、まだまだ結婚にまつわる不自由がある」ということについても触れました。

その上で、平安時代の結婚制度や恋愛について解説し、「制度に違いはあっても、結婚を取り巻く人間の心情は同じ。源氏物語の中にも、現代の家庭で抱えているような心情が描かれている」と、主人公の光源氏をめぐって繰り広げられる女性たちの多様な生き方を紹介しながら、時代を超えて読み継がれている源氏物語の魅力を語りました。

第5回市民参画センター交流まつり開催

9月7日、日頃弘前市民参画センターを利用しているグループが活動内容を紹介し、市民との交流を図る「市民参画センター交流まつり」が開かれ、多くの市民でにぎわいました。

第5回を数える今年の交流まつりも、参加団体のメンバーで組織する交流まつり実施委員会が、イベントや交流会の企画・進行などを担当しました。

会場の市民参画センターには、



活動紹介のボードに見入る来場者



短冊のテーマは「あなたのキラッとした瞬間」。センター利用者みなさんにご協力いただきました。

弘前の国際交流について話すハンナさんと北原さん

参加した15の団体がそれぞれ製作した展示ボードが飾られ、会員が訪れた人たちに熱心に自分たちの活動を説明する様子がみられました。

イベントとして、ボランティア朗読グループ「お話しシャワー」の民話や方言詩の朗読、NPO法人青森県男女共同参画研究所による活動報告「メディアを活用した活動」に続き、記念講演「日本語と英語で読む津軽学入門」『津軽学入門』出版と国際交流が行われました。

講演では、弘前大学国際交流センター准教授のサワダ・ハンナ・ジョイさんと、秋田看護福祉大学教授の北原かな子さんが、共著「日本語と英語で読む津軽学入門」出版にまつわる裏話や、国際交流に懸ける思いについて語りました。

さんかくネットつどいの広場

9月21日、「さんかくネットつどいの広場」が市民参画センターで開催され、多くの親子連れが参加しました。

弘前市の子育てサポートシステム「さんかくネット」は、一時的に子どもを預かってよい人を子育てサポーターとして登録し、仕事や社会参加で一時的に子どもを預かってほしいという保護者の依頼に応じて両者を仲介するシステムです。「つどいの広場」は、サポーターの研修のほか、子育て中の家庭への育児情報・交流の場の提供を目的として実施しています。

今回の広場では、「ベビーマッサージ」と「おもちゃ出張修理」が行わ



マッサージを子どもに実践する参加者。赤ちゃんたちはとても気持ちよさそうでした。

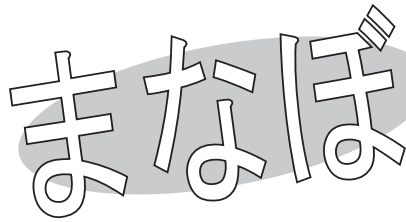


持ち込まれた玩具を修理するおもちゃ病院のドクター

れました。「ベビーマッサージ」ではNPO法人「アップルハンド」の郷右近歩さんがオイルを使って赤ちゃんのマッサージ法を指導し、スキンシップをとることで、親子ともにリラックス効果が得られることなどを説明しました。

また、壊れたおもちゃを無料で修理するボランティア団体「弘前おもちゃ病院」の出張修理コーナーにも多くのおもちゃが持ち込まれ、終始にぎわっていました。

「出会う・つながる・動き出す」第2回



津軽地域8市町村で、男女共同参画に関わる団体及び個人の連絡調整・協働を効果的に推進していくことを目的に、「男女共同参画ネットワーク・津軽広域」（平成19年1月21日）を設立しました。

私たちが、ネットワークの力についてシリーズでお伝えします。

～事業力を向上させるツボ!!～

男女共同参画をはじめとする各活動団体の事業を向上させていくには、構想力・推進力・活用力という“ツボ”が大切になってきます。

私たちが関わった具体的な事例を通して様々なヒントを読み取ってみてください。

構想力とは…事業を開発していく時に大切な課題の発見力、ひらめき、アイディア力、展望力、企画力など。
推進力とは…開発した事業を実施していくうえで大切な人材力、ネットワーク力、醸成力、専門力、マネジメント力、資金力など。

活用力とは…実施した事業の成果を活用していくための分析力、提案力、参画力、振り返り力、つながり力など。

◇弘前市子育てママの再チャレンジ応援事業例

実施主体：弘前市子育てママの再チャレンジ実行委員会
（※事務局：NPO 法人弘前こどもコミュニティ・ピーぷる）

再び社会とつながりたいけれど、どんなふうにもう一步を踏み出したらいいいのか迷っている子育てママを対象に、28講座（うち16はIT講座）を展開

【構想力】生き方、働き方をテーマにした講座。行政との協働、託児付き、講座の時間帯（企画力、アイディア力）

【推進力】自分発見、自分らしいキャリア発見を引き出す（マネジメント力）

【活用力】ピーぷる事業への参画、再就職（つながり力）

◇メディアを活用した男女共同参画の理解普及活動への取り組み例

実施主体：NPO 法人青森県男女共同参画研究所

県内マスメディアの現状調査やメディア・リテラシー研修を開催

【構想力】新聞にエッセイ連載、県内市町村広報紙の男女共同参画コーナーへ寄稿（アイディア力、企画力）

【推進力】日本女性学習財団「ウィラールン」「ジェンダー・カフェ」シリーズへの寄稿（専門力、ネットワーク力）

【活用力】市町村で各理事中心に事業展開（平内町で「虹の会」を設立し、朗読劇などによる啓発活動を実施ほか）、県内外へ講師を派遣（提案力、参画力）

◇まちづくり推進への活動事例

実施主体：女性フォーラム七戸

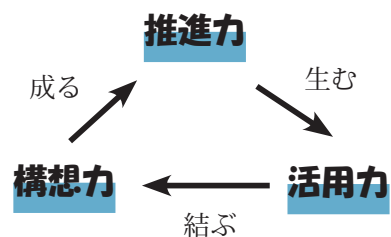
明るく住みよいまちづくりを推進するため、女性の視点から七戸町の将来にとって必要なことを提言し、今後のまちづくりに必要な課題について学習し活動する。

【構想力】七戸町議会の傍聴、七戸町民大学（公民館主催）、男女共同参画講座の受講（課題の発見力、アイディア力）

【推進力】七戸町への提言、その回答や議会傍聴の感想を広報（醸成力、ネットワーク力）

【活用力】公民館との協働、まちづくり活性化（提案力、参画力）

3つの力を循環させて
事業力をアップ!



記 男女共同参画ネットワーク・津軽広域（平成20年度連載担当）

事 平成19年1月21日誕生しました。津軽地域8市町村の男女共同参画業務担当者で構成している「市町村担当者ネットワーク会議」（平成18年4月1日設立）とコラボレーション（協働）し、お互いが対等な立場で情報

当 を共有、各事業や活動への支援と協力を官民両輪で推進していきたいと思っています。（代表 田中 弘子）

おとこの気持ち

聞いてみました

Q. あなたの家庭では、男女の差別はあるような気がする？

A. ない。特にそんなことを考えるようなことはなかった。

Q. 家庭の仕事で、自分が与えられている役割はある？

A. ない。

Q. 家庭の中の仕事で、男（女）がやるべきだと思う仕事はある？

A. ない。特に男だから女だからということをやっているのではなく、できることをそれぞれやっているのでは？ と思うので。

Q. あなたのクラスでは、男女平等だと思う？

A. たぶん。気になることはないから。

Q. 男女共同参画って聞いたことある？

A. ない。



中学2年生

家族：父・母（共働き）・兄・弟

インタビューを終えて

～学んで気づくこともあるのかも…～

だんだん不平等と思うようなことは少なくなっているのでしょうか？ それとも、それが当たり前の状況の中にいて、差別を差別とも思わなくなっているのでしょうか？ 男女共同参画について学ぶことで、気づくこともあるのかもしれないね。

お互いを認めながら暮らすことの必要性を、もっと感じられるようになってほしいな！

KEI

社会人として必要なことだった…

ある日、とある大学の研究室を、卒業生のAさんが訪ねてきました。

Aさん：先生、ありがとうございました。

先生：何が？

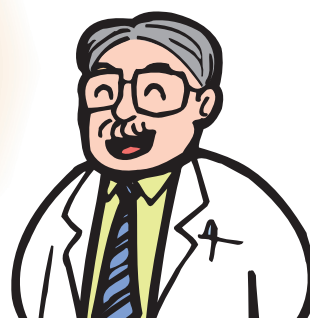
Aさん：学生時代、お客様にお茶を出すのが私たち研究生みんなの役目でしたが、私はそれがとてもいやだったんです。「なんで男がこんなこと」と。

先生：そうだったのか。

Aさん：でも先日、会社でお客様にお茶を出す時、あとでそのお客様から、「上手にお茶を入られる社員ですね。社員教育がしっかりしている会社なんですね」と上司がほめられたそうなんです。

先生：それはよかったじゃないか。

Aさん：あの頃嫌々やっていたことが、社会に出てみて初めてこんなに大事なことであったんだとわかりました。



これは、ある大学の先生からうかがったお話です。

お茶を入れるのは誰の仕事？って決まっていると思いますか？



さんかくひとりと

「我が家の味は僕の味」

家具職人 小野英樹さん



～小野英樹さんの紹介～

昭和 37 年生まれ

北津軽郡板柳町館野越生まれ

弘前市宮園在住

家族は妻と子ども 4 人

家具工房 GREEN BEETLE 経営

問い合わせ先 090-7332-9034

☆家事をしているそうですが？

朝はお弁当を 4 つ作ります。長女を朝 5 時に職場まで送り、妻も職場に送っています。洗濯機を回す以外は、僕が家事をしています。家具工房の仕事は午後 3 時までにして、夕ご飯の支度をするまでの間は図書館を利用したり、自分で自由に時間を使っています。

☆家事をやるきっかけは

結婚した頃は、妻が専業主婦だったので僕は家事はほとんどしませんでした。妻はつわりがひどく、3 カ月ぐらい寝込むタイプなので、その頃から家事をはじめました。

自分では「男が料理をするものじゃない」という考えはありません。小さい頃から、家族が忙しい時は、自分で料理をして食べていたから抵抗はないです。

台所が汚いのは好きではないんです。自分がやった方が速いし、きれいだし、散らかさないので、できたときにさっぱりするから自分でやっています。

☆子どもたちの反応は

子どもたちは「今日の晩ご飯はなあに」と僕に聞きます。我が家の味は僕の味です。子どもたちが小さい頃から僕が家事をしているので、それがあたり前。家事をする

る父親に違和感を感じていないと思います。子どもたちが将来、自分のことは自分でできるようにと、危なくない程度で料理をいっしょに作ったり、わざと味見をさせ子どもを巻き込んできました。我が家では、娘も息子も料理をします。

☆こだわりはものづくり

会社勤めもしたけれど、自分で物を作り出す「職人」になりたいと思います。調理の仕事は 10 年続け、旅行で泊まったログハウスが気に入って、ログハウスのビルダーを 3 年間やりました。ログハウスを建てられるようになると、今度は家具を作ってみたいと思います。木工の製図を学び家具工房を立ち上げ、11 年になります。木工作品はなんでも作ります。解体した廃材を利用して、持ち主の思いを取り込んだ作品も作ります。

職を変えるたびに「また辞める

☆目標は

山の裾野に自分の手で家を造り、工房の仕事をしたいです。将来子どもたちが帰って来られるふるさとを作りたいと思っています。



個展や展示会もおこなっています。ぜひおこしください



手づくりの椅子です。木工作品は色々あります。



雛祭り吟行（平成20年3月5日）

常に楽しく、少しでも長く

伊東一升先生以下、総勢?6名、平均年齢70ウン歳?!のわれわれの「早蕨俳句会」が、市民参画センターにおいて発足したのは、平成17年4月4日（月）午後1時でした。その日の「心覚え」にこう記されています。『新会場での初句会。隣室の某茶事の先生達の会議が可成り騒々しいが、殆ど苦にならず楽しく句作云々』

《早蕨俳句会》

弘前市民参画センター利用団体紹介

平成19年度利用状況報告

☆弘前市民参画センター

☆センター利用者数

利用場所	年度別	
	19年度	18年度
グループ活動室（有料）	12,545	13,150
ふれあいホール等（無料）	14,633	13,126
利用者数計（小計）	27,178	26,276
見学者	8	44
合計	27,186	26,320

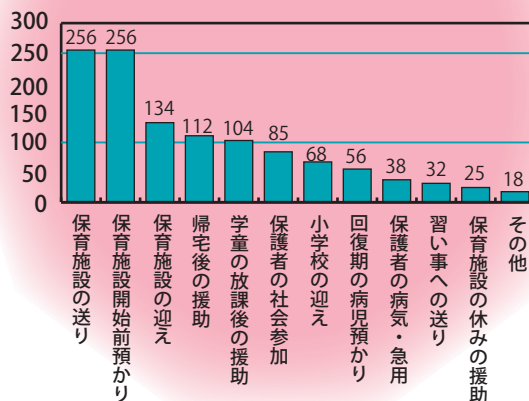
利用目的	公共団体		一般団体		合計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数
会議	14	325	277	3,493	291	3,818
講習会・研修会 勉強会・講座	0	0	524	6,660	524	6,660
講演会・フォーラム	3	60	18	297	21	357
その他	9	491	91	1,219	100	1,710
合計	26	876	910	11,669	936	12,545

☆活動室利用目的別
件数・人数

☆さんかくネット

☆さんかくネット
利用件数・人数

利用件数	19年度		18年度	
	依頼件数	預かり人数	依頼件数	預かり人数
個人	728	829	1,215	1,466
団体	80	474	66	434
計	808	1,303	1,281	1,900



☆さんかくネット
利用内容別件数（個人）

☆レターケース・団体用ロッカー

☆レターケース・団体用ロッカー利用団体数

レターケース（無料）	56	団体用ロッカー（有料）	23
------------	----	-------------	----

3月まで、社会保険センターで「ペアーレ俳句会」と銘打たれた句会に参加していました。いわば社会保険センター「お仕着せ」の会で、日程や諸経費についても全て他人任せ。

特別それを疑問にも感じず、それなりに楽しく続けていましたが、ある日突然社会情勢のあおりをくって施設閉鎖の宣告を受けたのです。そこは「年の功」とでも言いましょうか、大した混乱もありませんでした。

午後1時から3時まで。物静かな伊東先生に対して、弟子たちは声も大きくワイワイやっています。遠いところでは、相馬からバスで通っている方が最年長です。時には、弘前公園吟行などもししています。

坂田 悦子

市民参画センターからのお知らせ

★ひとにやさしい社会推進セミナー開催

◇基調講演「あきらめない女性たち」

講師：清水典子さん（フリーライター）

◇クロストーク「輝いて生きる農家の女性たち」

コーディネーター：清水典子さん

スピーカー：工藤良子さん（石川地区）

田村真裕美さん（岩木地区）

千葉清美さん（大清水地区）

成田久美子さん（相馬地区）

日時：12月6日（土） 14時～16時

場所：弘前駅前市民ホール（駅前町ジョッパル4階）

定員：100名

託児室：準備します（申込みが必要です）

問い合わせ・申込み先：市民参画センター

★さんかくシアター（無料ビデオ上映会）

◇「遠き落日」

対象：子育て中の女性

日時：12月18日（木）

10時～13時（ビデオ上映約2時間、
その後はフリータイム）

場所：市民参画センター3階 グループ活動室

定員：20名（申込みが必要です）

託児室：準備します（申込みが必要です）

問い合わせ・申込み先：市民参画センター

★年末年始の休館のお知らせ

市民参画センターは、12月28日（日）～1月3日（土）まで休館します。

編集後記

アメリカでは歴史上初の黒人大統領が誕生した。根強く残る人種差別にも変化をもたらすのだろうか？「私たちの祖先は、黒人の大統領が選出されるなど、夢にも思わなかったでしょう」と涙ぐむ年配の黒人女性の姿が印象的だった。日本の国民もこれほど政治に関心を寄せることができれば… 森

本の紹介

タイトル

女性とパワー ハラスメント

発行 NPO法人ウィメンズ・
サポート・オフィス連



パワハラは誰にでも起こりうること

パワーハラスメントとは何か？ この本の冒頭に出てくる、労働ジャーナリストの金子雅臣さんは、「職場において、地位や人間関係で弱い立場の労働者に対して、精神的または身体的な苦痛を与えることにより、結果として労働者の働く権利を侵害し、職場環境を悪化させる行為」と定義づけ、広い意味で職場での「いじめ」としている。

パワーハラスメント（以下パワハラ）という言葉は、まだ多くの人に理解されていないのが現状である。この現状が問題であるとして、NPO法人「ウィメンズ・サポート・オフィス連」が2007年10月に「知っていますか？ パワーハラスメント」と題して3回連続講座を開催した。パワハラについて学びなおした結果、講座を基にこの本を編集し発行したものである。

この講座を通して、「パワハラは誰にでも起こりうること、あらゆる面からの検証が必要であること、何より社会全体を見通す目をもつ大切さ」について、改めて学ぶことができたという。職場におけるいじめに悩み苦しんでいる人たちは急激に増加している。今、日本では自殺者が年間3万人を超え、10人に1人の割合でうつ病が広がっているとも言われている。

自分自身がパワハラの被害者であるということに気づかず、自分をダメな人間だと思い込む。逆に、職場環境の中で、知らぬ間にパワハラの加害者になってしまう。また、家族であるパートナーや子どもがパワハラの被害者になったら…私たちはどのように対処していけばよいのだろうか？ この本にはこれらを解決するヒントがたくさん詰まっている。

by komori

弘前市民参画センター

〒036-8355 弘前市大字元寺町1-13

TEL 0172-31-2500

FAX 0172-36-1822

開館時間 9:00～22:00

休館日 12月28日～1月3日

http://www.city.hirosaki.aomori.jp/gaiyo/shisetsu/kyouiku/htm_sankaku/framepage.htm

